

社会技術研究開発事業
令和5年度研究開発実施報告書

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（情報社会における社会的側面からのトラスト形成）」

研究開発領域

ニュース発信者と受信者間における「トラスト」形成

藤代 裕之
(法政大学 教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 実施内容・結果	2
2 - 3. 会議等の活動	5
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	6
4. 研究開発実施体制	6
5. 研究開発実施者	8
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	10
6 - 1. シンポジウム等	10
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	10
6 - 3. 論文発表	10
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	10
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	11
6 - 6. 知財出願（出願件数のみ公開）	11

1. 研究開発プロジェクト名

ニュース発信者と受信者間における「トラスト」形成

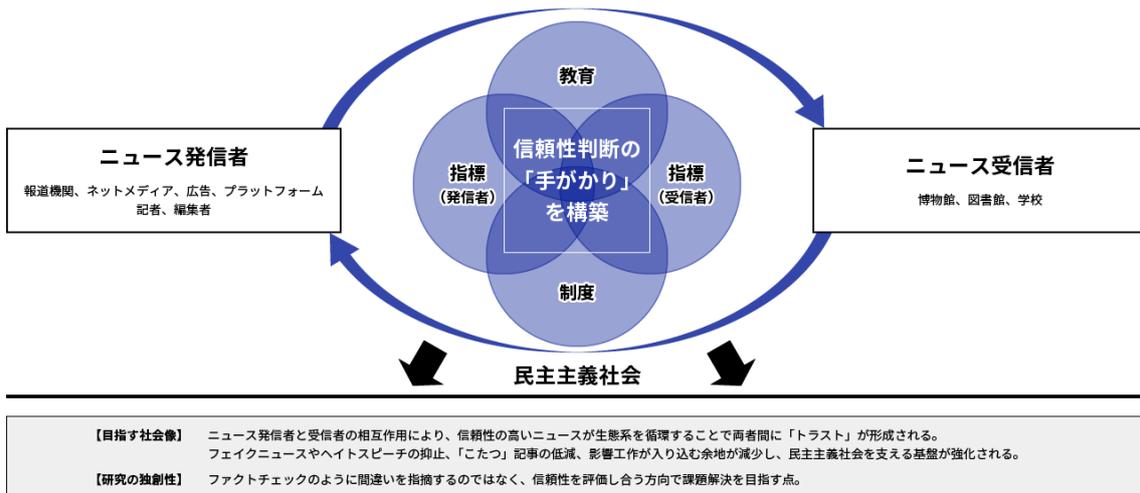
2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

本プロジェクトは、インターネットにおけるニュースの信頼性向上を目指し、ニュース発信者と受信者間における「トラスト」形成を目標とする。

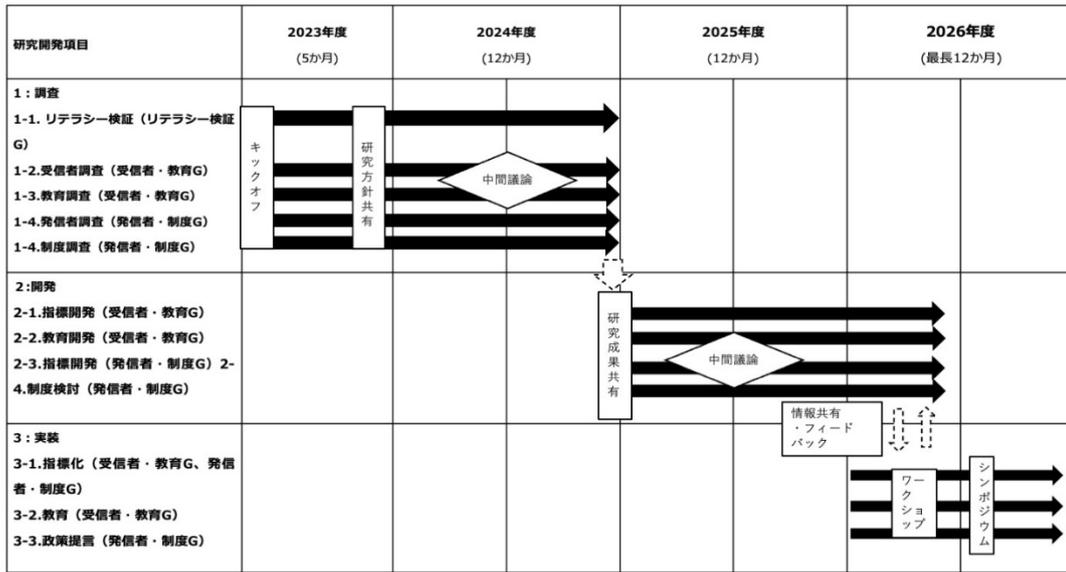
2023年度は、2024年度からの研究開発の本格的な実施に向け、各グループの研究方針を確認、共有することを目標とした。

【現状課題】	ニュース生態系の汚染（フェイクニュースやヘイトスピーチなど）が、民主主義社会を揺るがしている。
【要因】	<ul style="list-style-type: none">• ニュース発信者は、報道機関だけでなく、偽・誤情報を拡散するミドルメディア、世論工作を行う組織など、玉石混交である。• ニュース受信者には、信頼性判断の「手がかり」が不足しており、どの発信者が信頼できるのか判断が困難である。• 不確実性の高い「こたつ」記事のまん延、生成AIによる偽情報や動画が増大しており、信頼性判断を一層困難にしている。
【研究開発】	指標・教育・制度の3つのアプローチで、ニュース発信者と受信者の間に信頼性判断の「手がかり」を構築する。



2 - 2. 実施内容・結果

(1) スケジュール



2024年度からの研究開発の本格的な実施に向け、各グループの研究方針を確認、共有するためキックオフと研究合宿を実施した。

(2) 各実施内容

[当該年度における研究開発の内容・進め方]

1-1. リテラシー検証 (実施者：リテラシー検証グループ)

メディアリテラシー、情報リテラシー、ITリテラシーなどの各リテラシーについて整理し、それぞれのリテラシーが偽・誤情報対策としてどの程度の効果を持つのか検証するための研究設計とともに、データ収集を行う。

1-2. 受信者調査 (実施者：受信者・教育グループ)

海外調査のリサーチと受信者の信頼性判断の実態調査を行う。

- Google主催の「Trusted Media Summit」に参加し、フェイクニュース対策の知見を得る。2024年度に行う予定の海外調査の対象をリサーチする。
- 大学生を対象とした信頼性判断に関する調査を実施し、2024度以降の実施事項を踏まえた調査デザインの妥当性や改善点について検討する。
- インターネットの投稿を対象に人々の信頼性判断に関する調査を行う。ニュース記事に対する様態アノテーションとそれに基づく機械学習による分離について調査・検討する。また、クラウド調査によりニュースコメントに対するユーザの反応データを収集する。

1-4. 発信者調査 (実施者：発信者・制度グループ)

海外調査のリサーチと発信者の信頼性向上の取り組み実態を調査する。

- Google主催の「Trusted Media Summit」に参加し、フェイクニュース対策の知見を

得る。2024年度に行う予定の海外調査の対象をリサーチする。

1-5. 制度設計（発信者・制度グループ）

- フェイクニュースや偽・誤情報対策の法的制度やニュースに関するガバナンスモデルについて論文上で提案されているものも対象にしながら国内外の研究を調査する。

（3）成果

■リテラシー検証（実施者：リテラシー検証グループ）

- 文献調査結果をベースにアンケート調査票を作成し、さらに内容について研究開発メンバーで議論を行い、調査票を完成させた。

■受信者調査（実施者：受信者・教育グループ）

- 海外調査のリサーチと受信者の信頼性判断の実態調査を行った。
 - Google 主催の「Trusted Media Summit」に参加し、フェイクニュース対策のワークショップなどの事例を確認した。また、海外調査対象のリサーチを行った。
 - 大学生を対象とした信頼性判断に関する調査を実施した。
 - 受信者の信頼性判断の実態を明らかにするためにデータ取得や分類を行った。
 - ◇ 能登半島地震に関連する X (旧 Twitter) 投稿やヤフーニュースの記事を取得した。
 - ◇ ウクライナ侵攻や画像生成 AI に関連するニュース記事に対するコメントを収集した。
 - ◇ ニュース記事の文書構成を識別する機械学習手法に必要な教師データ作成のため、covid-19 に関連する新聞記事コーパスのデータ分類を行った。

■発信者調査（実施者：発信者・制度グループ）

- 海外調査のリサーチと発信者の信頼性向上の取り組み実態を調査した。
 - Google 主催の「Trusted Media Summit」に出席し、ファクトチェックやミスインフォメーション対策を行っている組織に話を聞いた。
 - 日本の主要なメディアが公開している信頼性向上の取り組み整理に向けた議論を行った。

■教育調査（実施者：受信者・教育グループ）

- 教育プログラム開発に向け、調査対象となるローカルメディアのデータを収集、整理した。

■制度設計（発信者・制度グループ）

- フェイクニュースや偽・誤情報対策の法的制度やニュースに関するガバナンスモデルについて国内外の研究を調査した。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

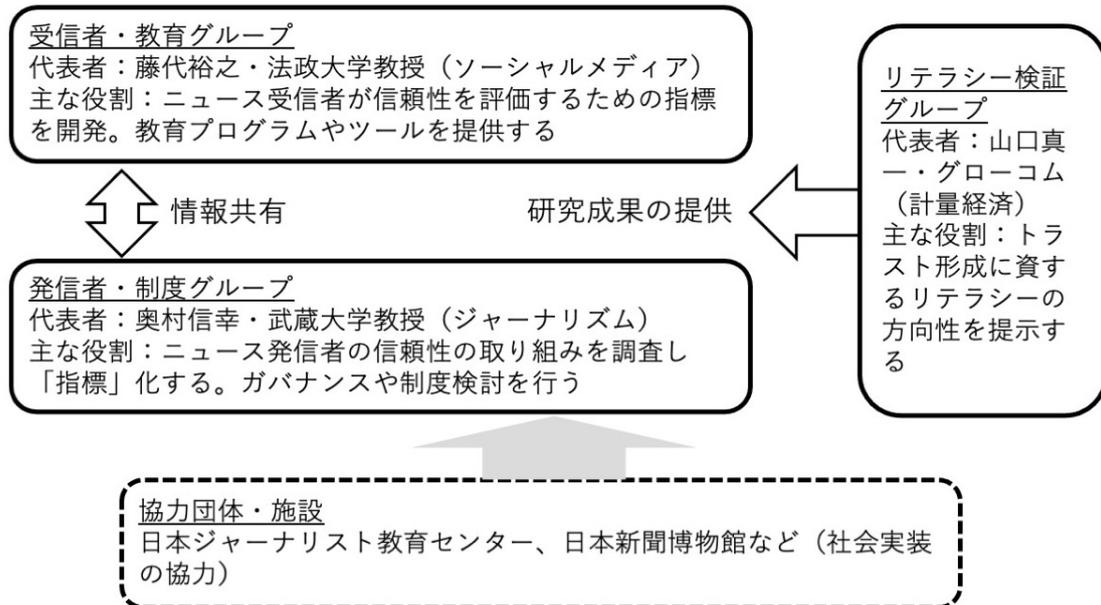
プロジェクトは概ね順調に推移している。能登半島地震が起きたことでデータ取得を行うことが出来た。プロジェクトのマネジメントに課題があり、予算や研究・報告などに関する共有プロセスを見直すことで改善を行う。

2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2023年10月14日	研究者キックオフ	オンライン	研究担当者が研究の方向性を共有した。
2023年12月1日	プログラム全体キックオフ	オンライン	研究に参画する全体が集まり、研究の方向性を共有し、確認を行った。
2023年12月9日	発信者・制度グループ打ち合わせ	オンライン	同グループの研究の方向性について議論を行った。
2024年2月9日-10日	研究合宿	湯河原	2023年度の取り組み共有と、2024年度の研究について議論を行った。

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

4. 研究開発実施体制



研究開発は、受信者・教育グループ、発信者・制度グループ、リテラシー検証グループの3つで実施する。各グループの代表者間には、研究開発期間中にはメッセージャーなどを利用し、進捗状況を共有するようにし、必要があればオンライン会議を実施する。また、主たる実施者もメッセージャーなどで随時連絡を取り合える関係を構築し、開発成果を有機的に統合できる環境を整える。

■受信者・教育グループ (藤代裕之法政大学社会学部教授)

受信者それぞれの関心にもとづいて参照可能になるような「指標」を開発する。「指標」の理解・実践を進めるために「教育」プログラムやツールを開発する。

■発信者・制度グループ (奥村信幸武蔵大学社会部教授)

発信者の運営や取材方針など信頼性向上の取り組み明らかにし、信頼性の基準や考えを可視化し「指標」を提案するとともに、「指標」に関するガバナンスや法制度の検討を行う。

■リテラシー検証グループ（山口真一国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授）

どのようなリテラシーが偽・誤情報対策としてどの程度の効果を持つのかや、人々のメディアに対する信頼がどのように形成されるかを定量的に明らかにする。

5. 研究開発実施者

受信者・教育グループ (リーダー氏名：藤代裕之)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
藤代 裕之	フジシロ ヒロユキ	法政大学	社会学部	教授
松下 光範	マツシタ ミツノリ	関西大学	総合情報学部	教授
森野 穰	モリノ ユ タカ	関西大学	総合情報学部	大学院生
杉原 昂紀	スギハラ コウキ	関西大学	総合情報学部	大学院生
安尾 萌	ヤスオ メ グミ	関西大学	総合情報学部	大学院生
吉見 憲二	ヨシミ ケ ンジ	成蹊大学	経営学部	准教授
田中 輝美	タナカ テ ルミ	島根県立大学	地域政策学部	准教授
耳塚 佳代	ミミヅカ カヨ	テキサス大学オ ースティン校		
白井 瞭	シライ リ ョウ	リ・パブリック		
野々山 正章	ノノヤマ マサアキ	ゆめみ		
齋藤 萌音	サイトウ モネ	ユニークビジョ ン		

発信者・制度グループ (リーダー氏名：奥村信幸)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
奥村 信幸	オクムラ ノブユキ	武蔵大学	社会学部	教授
西田 亮介	ニシダ リ ョウスケ	東京工業大学	リベラルアーツ研究教育院	准教授
水谷 瑛嗣郎	ミズタニ エイジロウ	関西大学	社会学部	准教授
井上 直樹	イノウエ ナオキ	NHK/元Google News Labフェロー		
新志 有裕	シンシ ア リヒロ	弁護士ドットコ ムニュース		

リテラシー検証グループ (リーダー氏名：山口真一)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
山口 真一	ヤマグチ シンイチ	国際大学	グローバル・ コミュニケーション・セン ター	准教授
井上 絵理	イノウエ エリ	国際大学	グローバル・ コミュニケーション・セン ター	客員研究員
大島 英隆	オオシマ ヒデタカ	国際大学	グローバル・ コミュニケーション・セン ター	客員研究員

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

なし

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

なし

(2) ウェブメディアの開設・運営

なし

(3) 学会 (6-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ 十三X(Juso Cross)十三×まちの資源活用編 (https://urban-ii.or.jp/events/detail.php?event_id=576) で講演。講演題目は「アート観賞イベントと連動したインタラクティブな街歩き型ストーリーリーダー」で、地域からの情報発信の重要性の説明として、「その地域のアーティスト自らが情報を発信すること」による情報の信頼性向上と固定化された印象のアップデートの可能性について講演し、主体的な情報発信によるトラストの醸成についての情報発信を行った。

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (0件)

- 国内誌 (0件)

- 国際誌 (0件)

(2) 査読なし (0件)

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 1 件、国際会議 2 件)

- ・ 藤代裕之 (法政大学)、「デジタル社会のトラスト」、情報ネットワーク法学会、明治大学、2023年12月10日
- ・ 山口真一、「AI, the Internet, and Fake News」、JENESYS2023 ASEAN-Japan Student Conference、JICE、2023年12月15日・16日
- ・ 山口真一、「Misinformation and Disinformation in Our Society」、Internet Governance Forum 2023、国際連合、2023年10月8日

(2) 口頭発表 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)

- ・安尾萌、林沙也加、松下光範: ニュースに対するコメントが閲覧者の意見形成に与える影響に関する予備調査、人工知能学会第32回インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会予稿集, pp.44-49 (2024). URL: <https://must.c.u-tokyo.ac.jp/sigam/sigam32/sigam3207.pdf>

(3) ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

6-5. 新聞/TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞/TV報道・投稿 (10 件)

- ・藤代裕之、「汚染されたニュースの生態系を浄化する」、朝日新聞EduA「SDGs@大学」、2024年1月24日
- ・山口真一、「「だまされやすい」と自覚し 情報のチェック徹底」、読売中高生新聞、2024年3月29日
- ・山口真一、「日本の弱点は「情報に受け身」、デジタル空間についての教育充実が対策に…国際大・山口真一准教授」、読売新聞、2024年3月26日
- ・山口真一、「(山口真一のメディア私評) 災害時のデマ投稿・拡散 質より閲覧数稼ぎ、求められる対策」、朝日新聞、2024年3月14日
- ・山口真一、「日経ニュースプラス9 追跡! ニュースのリアル AIで進化するフェイク動画 デジタル署名で防ぐ?」、BSテレ東、2024年3月8日
- ・山口真一、「溢れる災害デマへの対処方法」、家庭科通信、2024年3月1日
- ・山口真一、「災害時のSNS「デマ・誤情報」感わされない対策6つ」、東洋経済ONLINE、2024年1月6日
- ・山口真一、「「50~60代の方がだまされやすい」傾向も 識者に聞くデマ対策」、朝日新聞、2024年1月3日
- ・山口真一、「ニュースLIVE! ゆう5時 あふれるフェイク情報 どう見分ける?」、NHK、2023年11月30日
- ・山口真一、「生成AIの普及でウィズフェイク2.0時代に」、中央公論、2023年11月10日

(2) 受賞 (0 件)

(3) その他 (1 件)

- ・藤代裕之、「岸田首相の偽動画、1時間で作成 AI使いSNSに拡散」(コメント)、共同通信、2023年11月10日

6-6. 知財出願 (出願件数のみ公開)

(1) 国内出願 (0 件)

- ・“発明の名称、発明者、出願人、出願日、出願番号”

(2) 海外出願 (0 件)

- ・ “発明の名称、発明者、出願人、出願日、出願番号”